

November 13, 2020

【前日の為替概況】ドル円 反落、米長期金利が低下

12日のニューヨーク外国為替市場でドル円は反落。終値は105.13円と前営業日NY終値(105.43円)と比べて30銭程度のドル安水準だった。10月米消費者物価指数(CPI)が総合・コアともに予想を下回ったことを受けて、米長期金利の低下とともにドル売りが先行した。「トランプ米大統領は中国人民軍との関係を理由に中国の一部企業への投資を禁止する」との報道を受けてダウ平均が500ドル近く下落すると、ドル円にも売りが出て一時105.07円と日通し安値を付けた。ただ、前日の安値105.01円を下抜けるほどの勢いはなかった。

なお、パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長はこの日参加した討論会で、新型コロナウイルスワクチンの臨床試験(治験)で良好な結果が出たことについて「歓迎する」としながらも、「米経済への影響を評価するには時期尚早」と述べ、足もとの感染急拡大で「この先数カ月は厳しい状況になるかもしれない」との考えを示した。ともに参加したラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁も「ワクチンの生産と配布についてはまだ不確実性があるため、熱狂的になることを望まない」などと語った。

ユーロドルは反発。終値は1.1806ドルと前営業日NY終値(1.1777ドル)と比べて0.0029ドル程度のユーロ高水準だった。欧州時間に一時本日高値となる1.1823ドルまで上昇した影響が残ったが、NY市場では1.18ドル台前半でのみ合いに終始した。ユーロ円は小幅ながら3日続落。終値は124.12円と前営業日NY終値(124.17円)と比べて5銭程度のユーロ安水準だった。

ポンドは全面安。英国と欧州連合(EU)の自由貿易協定(FTA)交渉が重要な局面を迎える中、依然として「公正な競争条件」や「漁業権」などの分野で大きな隔たりがあり、妥協点が見いだせずにいる。このような状況下で、ジョンソン政権の広報責任者の辞任が伝わり、政権内で緊張が高まっているとの見方からポンド売りが優勢になった。ポンドドルは一時1.3106ドル、ユーロポンドは0.9004ポンド、ポンド円は137.75円までポンド安に振れた。

英国で新型コロナ感染が再拡大し、景気の先行き懸念が高まっていることもポンドの上値を圧迫した。英国では1日あたりの新型コロナ新規感染者数が3万3470人と過去最多になっている。

【本日の東京為替見通し】週末を控えリスクオフに傾くか、ウイルスの猛威や米国の混乱も注目

本日のドル円も105円近辺を中心とした取引になりそうだが、上値は限定的か。ダウ平均が続落し、週初のワクチン開発やバイデン氏当確のバブルが弾けつつあることが、ドル円の上値を圧迫しそうだ。

ウイルスワクチンは順調に開発が進む見込みがあるものの、現在欧米や日本で起こっている感染第2(または、第3)波を乗り越えることができるかも難しい状況だ。11日の米国での感染拡大は深刻で、死者数(1893人)や感染者数(14万4133人)と最多を記録し、コロナ地獄(Covid Hell)という言葉も出てきている。また、米国ではこの後感謝祭を迎え、米国内で最も国民が移動することで更なる感染拡大を懸念する声もある。

本来ならばこの危機下で大統領が率先して規制や経済対策を行う状況なのだが、いまだにトランプ現大統領は大統領選の結果にこだわり、全くウイルス対策に関わりたくせず放置状態。その反面、今週に入り(国防長官含む)国防省高官が多く辞め(させられ)、昨日は国土安全保障省(ホームランド・セキュリティ)の高官2人がトランプ氏により辞任に追いこまれるなど、トランプ政権最後の大粛清が行われていることも米国売りになりかねない状況だ。本日も週末を前にして、リスク回避による米株売り・債券買い＝金利低下の動きがドル円の上値を圧迫する可能性がありそうだ。

欧州通貨の値動きも本日は神経質になるだろう。昨日、ユーロは買い戻しが入ったが、ポンドは弱含んだ。欧州連合(EU)と英国の通商交渉は今後も続くと思われ、協議が物別れに終わると考えるのは時期尚早だろう。しかし、トランプ大統領を真似て強権を発動してきたジョンソン英政権は首相の腹心が辞任するなど、内部から崩壊する危機を迎えつつある。欧州でもウイルスが猛威を振るう中、ポピュリスト政治の限界も見えてきていることで、本日は経済的な状況だけでなく政治的な動きも欧州通貨を動意づけることになるか。

なお、本日もレーン・フィンランド中銀総裁、デコス・スペイン中銀総裁、バイトマン独連銀総裁などの講演も予定されていることで、ユーロは要人の発言で右往左往する可能性もありそうだ。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<海外>

- 15:30 ◎ 10月インド卸売物価指数 (WPI、予想：前年比 1.50%)
- 16:00 ◇ 10月独卸売物価指数 (WPI)
- 16:00 ◇ 9月トルコ鉱工業生産 (予想：前月比 0.2%)
- 16:30 ◇ 10月スイス生産者輸入価格
- 16:45 ◇ 10月仏消費者物価指数 (CPI) 改定値 (予想：前月比▲0.1%/前年比横ばい)
- 17:30 ◎ レーン・フィンランド中銀総裁、講演
- 17:30 ◎ 7-9月期香港域内総生産 (GDP) 確定値 (予想：前期比 3.0%/前年同期比▲3.4%)
- 18:00 ◎ デコス・スペイン中銀総裁、講演
- 19:00 ☆ 7-9月期ユーロ圏 GDP 改定値 (予想：前期比 12.7%/前年比▲4.3%)
- 19:00 ◇ 9月ユーロ圏貿易収支 (予想：季節調整前 220億ユーロの黒字/季節調整済 225億ユーロの黒字)
- 19:00 ◎ バイトマン独連銀総裁、講演
- 21:00 ◎ ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁、討議に参加
- 22:00 ◎ カンリフ英中銀 (BOE) 副総裁、講演
- 22:30 ◎ 10月米卸売物価指数 (PPI、予想：前月比 0.2%/前年比 0.4%)
 - ◎ 食品とエネルギーを除くコア指数 (予想：前月比 0.2%/前年比 1.2%)
- 22:30 ◎ ブラード米セントルイス連銀総裁、講演
- 23:00 ◎ テンレイロ英中銀金融政策委員会 (MPC) 委員、講演
- 24:00 ◎ 11月米消費者態度指数 (ミシガン大調べ、速報値、予想：82.0)
- 14日 01:00 ◎ ベイリーBOE 総裁、講演

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

12日 10:41 安達日銀審議委員

「経済全体は持ち直したが、回復ペースは属性によってばらつきが見られる」

「経済を持ちこたえさせるという意味での政策目的は概ね達成されつつある」

「緩和的な金融政策スタンスの維持がウィズコロナで求められる」

「緩和環境の維持が物価安定目標の達成に向けた基礎になる」

12日 17:18 ベイリー英中銀(BOE)総裁

「QEの目標は国債金利ではなく経済全体」

「GDPデータは予想通りの結果だった」

「強烈的な回復を遂げた、まだ大きなギャップを抱えている」

「ワクチンのニュースは心強いが、予測の前提と概ね一致」

「イールドカーブコントロールの必要性は高くないと見込む」

「マイナス金利を適用する明確な日には頭がない」

13日 01:59

「コロナワクチンで不透明感が和らぐ可能性」

12日 19:06 ゴープ英内閣府担当相

「ブレグジット交渉は進展している。ただ、相違点もある」

12日 21:56 英首相報道官

「英・欧州連合(EU)合意のために与えられた時間はわずかだが、依然として溝は大きい」

「懸命に作業を行っているが、英主権の尊重が必要」

「離脱後もEUとの前向きな関係を想定」

13日 01:56 パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長

「米景気は予想より早く力強い」

「コロナワクチンは中期的な良いニュース」

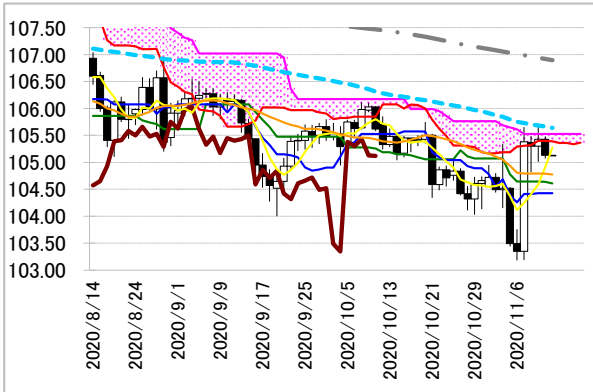
「向こう数カ月は厳しい時期になる」

13日 01:58 ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁

「コロナワクチンについて熱狂的になることを望まない」

※時間は日本時間

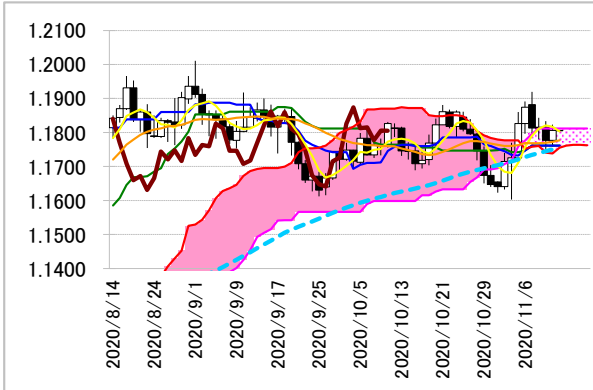
〔日足一目均衡表分析〕



<ドル円=日足一目均衡表・雲の上限が抵抗に>

陰線引け。105 円半ばまで強含むも、日足一目均衡表・雲の上限に触れずに反落した。相場方向を示す一目・基準線は104 円台で低下傾向。転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線の下で推移し、雲の下で引けたことで再び三役逆転の売りシグナルが点灯した。本日は、薄いながらも抵抗帯として機能している一目・雲をバックに売りスタンスで臨み、水準は近いが11 日高値超えでは手仕舞い。

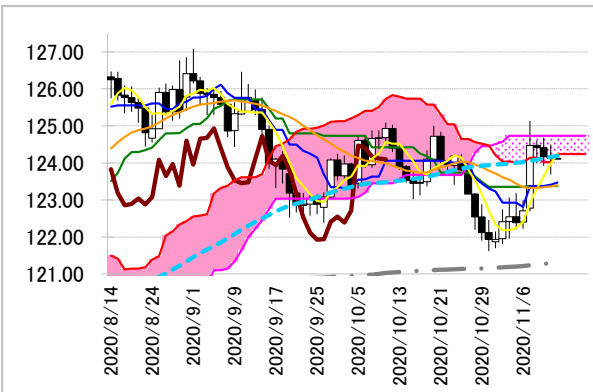
レジスタンス1	105.68(11/11 高値)
前日終値	105.13
サポート1	104.82(11/10 安値)
サポート2	104.43(日足一目均衡表・転換線)



<ユーロドル=レンジブレイクに付いていく展開か>

陽線引け。日足一目均衡表・雲の中で売りが先行するも、一目・基準線や転換線付近で下げ止まり反発。ただ、雲の上ではやや伸び悩んだ。本日は1.18 ドル前半で横ばいの一目・雲の上限を念頭に置いた値動きか。雲の中で推移した場合でも、前述した基準線の他、上向きの90 日線が支持水準として機能しそうだ。方向感が定まっておらず、直近レンジをしっかりと抜けた方向に付いていく取引で臨みたい。

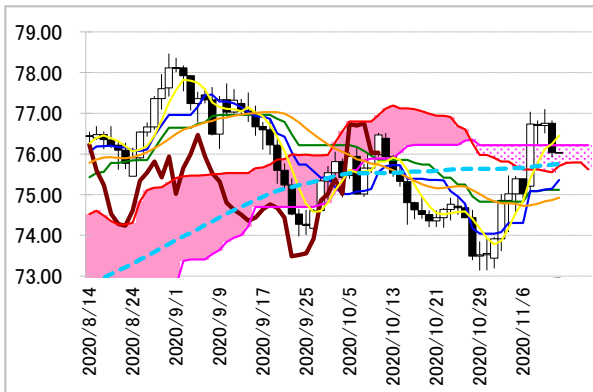
レジスタンス1	1.1843(11/10 高値)
前日終値	1.1806
サポート1	1.1746(11/11 安値)



<ユーロ円=11 日高値を抵抗に売りスタンス>

小陰線引け。123 円後半で下げ渋り、一時124 円半ばまで下値を切り上げた場面があった。ただ日足一目均衡表・雲の中では伸び悩み、引けにかけて雲の下限を下回り、3 手連続の陰線引けとなった。10 日以降、124 円半ばで上値を抑えていることを尊重し、本日は11 日高値を抵抗に売りスタンスで臨みたい。ただ一目・基準線を上回る転換線が123 円半ばで上向きであり、下サイドも限定的か。

レジスタンス1	124.68(11/11 高値)
前日終値	124.12
サポート1	123.47(日足一目均衡表・転換線)



<豪ドル円=一目・雲を中心とした値動きに>

陰線引け。76 円後半で頭を抑えられて日足一目均衡表・雲の中に入り込み、一時76 円割れまで売り込まれた。週初急騰後も底堅く推移していたが、77 円台での滞空時間は短かった。本日は76 円前半から75 円後半に位置する一目・雲を中心とし、次の方向性を探る展開か。もし雲の下限を割り込むようであれば、一段の調整売りが進みそうだ。

レジスタンス1	77.10(11/11 高値)
前日終値	76.03
サポート1	75.71(日足一目均衡表・雲の下限)

